

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3673514号
(P3673514)

(45) 発行日 平成17年7月20日(2005.7.20)

(24) 登録日 平成17年4月28日(2005.4.28)

(51) Int.Cl.⁷

F I

B60N 3/00
B60N 3/08
B60N 3/10
B60R 7/06B60N 3/00 B
B60N 3/08
B60N 3/10 A
B60R 7/06 Z

請求項の数 4 (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2002-328697 (P2002-328697)
 (22) 出願日 平成14年11月12日(2002.11.12)
 (65) 公開番号 特開2003-212027 (P2003-212027A)
 (43) 公開日 平成15年7月30日(2003.7.30)
 審査請求日 平成14年11月12日(2002.11.12)
 (31) 優先権主張番号 10155798.1
 (32) 優先日 平成13年11月14日(2001.11.14)
 (33) 優先権主張国 ドイツ(DE)

(73) 特許権者 502279962
 フィッシャー オートモーティブ システ
 ムズ ゲゼルシャフト ミット ベシュレ
 ンクテル ハフツング
 ドイツ連邦共和国 ホルプ インドウスト
 リーシュトラッセ 103
 (74) 代理人 100061815
 弁理士 矢野 敏雄
 (74) 代理人 100094798
 弁理士 山崎 利臣
 (74) 代理人 100099483
 弁理士 久野 琢也
 (74) 代理人 100114890
 弁理士 アインゼル・フェリックス＝ライ
 ンハルト

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 移動手段のための組込式コンビネーション

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

移動手段のための組込式コンビネーションであって、上方に開放した容器と、飲料容器のための収納エレメントとが設けられており、該収納エレメントが、飲料容器のための収納開口を有している形式のものにおいて、

組込式コンビネーション(10)がカバー(12)を有しており、該カバー(12)が、ほぼ水平方向に配置されるように移動手段に設けられており、前記カバーが開口(22)を有しており、該開口の下に容器(14)と収納エレメント(24)とが配置されており、組込式コンビネーション(10)が摺動案内部(16, 18)を有しており、該摺動案内部が、容器(14)を、カバー(12)の開口(22)の下方においてカバーの下側に沿ってほぼ水平に、カバー(12)の開口(22)から離れるように摺動可能に案内しており、収納エレメント(24)と容器(14)とが互いに結合されており、これにより、容器(14)がカバー(12)の開口(22)から離れるように摺動させられた場合には、収納開口(28)を備えた収納エレメント(24)がカバー(12)の開口(22)の下へ移動させられ、また、容器(14)がカバー(12)の開口の下へ摺動させられた場合には、逆に収納エレメント(24)がカバー(12)の開口(22)から離れるように戻されるようになっていることを特徴とする、移動手段のための組込式コンビネーション。

【請求項2】

前記収納エレメント(24)がヒンジ(32)によって旋回可能に容器(14)に結合さ

れている、請求項 1 記載の組込式コンビネーション。

【請求項 3】

前記組込式コンビネーション (10) が、カバーに固定されたヒンジ (34; 42) を有しており、該ヒンジによって収納エレメント (24) が旋回可能に支承されている、請求項 1 記載の組込式コンビネーション。

【請求項 4】

前記収納エレメント (24) が、2つの部分 (25, 26) とヒンジ (30) とを有しており、該ヒンジが、2つの部分 (25, 26) を相対旋回可能に互いに結合させている、請求項 1 記載の組込式コンビネーション。

【発明の詳細な説明】

10

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、上方に開放した容器と、飲料容器のための収納エレメントとが設けられており、該収納エレメントが、飲料容器のための収納開口を有している形式の、移動手段、特に自動車のための組込式コンビネーションに関する。

【0002】

【従来の技術】

組込式コンビネーションは、上方へ開放した容器、例えば灰皿又は保管室と、飲料容器、例えば飲料缶、グラス又はカップのための収納開口を備えた収納エレメントとを有している。組込式コンビネーションは、例えば自動車の中央コンソールに水平に組み込まれるように設けられている。

20

【0003】

種々異なる仕様形式のための種々異なる構造及び形態の飲料容器のためのホルダが知られている。さらに、種々異なる構造の、自動車のための組込式灰皿が知られている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

本発明の課題は、上方へ開放した容器、例えば灰皿又は保管室を飲料容器のためのホルダ又は収納エレメントと、場所をとらずに組み合わせることである。

【0005】

【課題を解決するための手段】

30

前記課題は本発明によれば請求項 1 の特徴によって解決された。本発明による組込式コンビネーションはカバーを有しており、このカバーは、移動手段にほぼ水平に配置されるように設けられている。この場合、水平方向の配置は、組み込まれた位置である。カバーは、構成部材、特に自動車の中央コンソールの上側であることができる。カバーは開口を有しており、この開口の大きさ及び形状は、上方へ開放した容器の開口に対応する。容器及び収納エレメントは、組込式コンビネーションの組み込まれた位置においてカバーの下に配置されている。

【0006】

さらに、本発明による組込式コンビネーションは摺動案内内部を有しており、この摺動案内内部は、容器をほぼ水平方向にカバーの下側において摺動可能に案内している。容器は、上方からアクセス可能になるようにカバーの開口の下へ摺動可能である。容器は、アクセス不可能になるようにカバーの開口から離れるように摺動可能である。収納エレメントと容器とは互いに結合されているので、容器の摺動によって収納エレメントが移動させられる。容器がカバーの開口から離れるように摺動させられると、容器は、この容器に結合された収納エレメントをカバーの開口の下へ移動させ、これにより、飲料容器が収納エレメントの収納開口に収納可能となる。容器がカバーの開口の下へ摺動させられると、容器は収納エレメントをカバーの開口から離れるように移動させる。この場合、容器のみがアクセス可能となる。

40

【0007】

【発明の効果】

50

本発明は、容器と、飲料容器のための収納エレメントとが場所をとらずに例えば自動車の中央コンソールに収納可能であるという利点を有する。特に、組込式コンビネーションは、容器がカバーの開口から離れるように摺動させられている場合に自動車の中央コンソールの前方でかつダッシュボードの下方における延長部に位置するように、収納することができる。この空間は通常利用されないはずである。本発明の別の利点は、容器と収納エレメントとの交互の利用を可能にすること、及び組込式コンビネーションの構造的にさらに簡単な構成である。

【0008】

本発明の有利な実施例では、収納エレメントがヒンジによって旋回可能に容器に結合されており、これにより、収納エレメントは不使用時に下方へ旋回可能である。この形式では、収納エレメントは不使用時に場所をとらずに収納可能である。

10

【0009】

本発明の実施例では、収納エレメントのための、カバーに固定されたヒンジが設けられている。カバーに固定されたとは、ヒンジが、組込式コンビネーションの組み込まれた状態においてカバーに対して摺動しないことを意味する。

【0010】

収納エレメントを不使用時に場所をとらずに収納するために、本発明の実施例では、収納エレメントが少なくとも2つの部分から構成され、これらの部分がヒンジによって旋回可能に互いに結合されている。不使用時には、収納エレメントの2つの部分は折り畳まれるように旋回させられ、このことは、収納エレメントの屈曲と呼ばれることもできる。

20

【0011】

【発明の実施の形態】

以下に本発明の実施の形態を図面につきさらに詳しく説明する。

【0012】

図1aに示された本発明による組込式コンビネーション10は、例えば図示されていない自動車の中央コンソールに組み込むために設けられている。組込式コンビネーション10は板状のカバー12を有しており、このカバー12は、組み込まれた状態では、水平に配置されていて、前方領域においてアーチ状に斜め上方へ延びている。カバー12は、その他の部分は図示されていない自動車の中央コンソールの構成部材、すなわちこのような中央コンソールの上側であることができる。カバーは、前方領域においてダッシュボードの中央部に移行しており、ダッシュボードは、自動車中央において中央コンソールまで下方へ延びている。カバー12は、カバーの下に設けられている組込式コンビネーション10の構成部材を示すために図1a～図1cにおいて断片的に示されている。

30

【0013】

カバー12の下側には、上方に向かって開放した容器、つまり図示及び説明された本発明の実施例では灰皿14が配置されている。灰皿14は平面図において矩形を有しており、灰皿の上側にはストリップ状のばね16が側方へ突出しており、このばね16は、案内レール18に摺動可能に収容されている。案内レール18は、カバー12と一体的に、カバーの下側に配置されており、案内レールとカバーとは、互いに対して平行に、長手方向に延びている。案内レール18はC字形の横断面を有している、すなわち、長手方向に貫通した溝を、互いに向かい合った内側に有しており、この溝に灰皿14のばね16が摺動可能に収容されている。案内レール18は、ばね16と相俟って灰皿14のための摺動案内部を形成しており、この摺動案内部によって、灰皿14は長手方向に摺動可能に、カバー12の下側において案内されている。灰皿14は、図1aに示された位置から図1bに示された中間位置を経て図1cに示された位置まで摺動することができ、またこの逆方向に摺動することができる。図2a～図2cは図1a～図1cに対応する、すなわちそれぞれ灰皿の14の同じ位置を示している。摺動のために、灰皿14は、上方へ起立したリップを上側にグリップ20として有している。カバー12には矩形の開口22が設けられており、この開口を介して、後方へ押し付けられた、図1a及び図2aに示された位置における灰皿14がアクセス可能である。前方へ押し付けられた、図1c及び図2cに示された

40

50

位置においては、灰皿 1 4 はアクセス不可能である。

【0014】

灰皿 1 4 の後側には、図示及び説明された発明の実施例では例えば飲料容器、コップ又はグラス等の飲料容器のための円形の収納開口 2 8 を備えた収納エレメント 2 4 が配置されている。収納エレメント 2 4 は、図 1 a ～ c 及び図 2 a ～ c においては 2 つの板状の部分 2 5, 2 6 を有しており、これらの部分がヒンジ 3 0 によって相対旋回可能に互いに結合されている。収納エレメント 2 4 の前方の部分 2 5 は、灰皿 1 4 の両側に設けられたピン支承部若しくはヒンジ 3 2 によって灰皿 1 4 に旋回可能に結合されている。収納エレメント 2 4 の後側の部分 2 6 は、ピン支承部若しくはヒンジ 3 4 によって支承ブラケット 3 6 に旋回可能に支承されており、この支承ブラケット 3 6 は、カバー 1 2 と一体的に、カバーの下側から突出している。ヒンジ 3 0 とピン支承部 3 2, 3 4 とによって規定された 3 つの全ての回転軸は、互いに対して平行に、水平に、灰皿 1 4 の摺動案内 1 6, 1 8 に対して垂直に配置されている。

10

【0015】

図 1 c 及び図 2 c に示された前方の位置へ灰皿 1 4 が摺動すると、収納エレメント 2 4 の両方の部分 2 5, 2 6 は、カバー 1 2 の下側において平行な水平な位置に達する。収納開口 2 8 はカバー 1 2 の開口 2 2 の下に位置するので、飲料容器、例えば図 2 c に一点鎖線で示されたカップ 3 8 が収納開口 2 8 に収納可能である。灰皿 1 4 が、図 1 a 及び図 2 a に示された後方の位置に摺動されるならば、収納エレメント 2 4 の両方の部分 2 5, 2 6 は、ヒンジ 3 0 において下方へ屈曲するので、ほぼ垂直に懸吊されながら、ひいては場所をとらずに灰皿 1 4 の後側に収納される。

20

【0016】

図 1 及び図 2 c に示された、前方へ押し付けられた位置において、灰皿 1 4 は自動車の中央コンソールの前方に、ダッシュボードの下方に位置している。灰皿 1 4 は、例えば、ラジオ又は同様のもののための組込空間 4 0 の下方、つまり通常であれば使用されないはずの空間に配置されている。

【0017】

図 3 a ～ 図 3 c において、以下では図 1 a ～ c 及び図 2 a ～ c と一致する構成部材のために同じ参照符号が使用される。図 3 a ～ c に示された組込式コンビネーション 1 0 の収納エレメント 2 4 は一体的であり、この収納エレメントは、矩形の輪郭と円形の収納開口 2 8 とを備えた板状の部材から成っている。板状の収納エレメント 2 4 から、側面図で見ると両側に三角形の支持リブ 4 0 が下方へ突出している。支持リブ 4 0 は支承ピン 4 2 を有しており、この支承ピン 4 2 は、その他の部分は示されていない自動車の中央コンソールの側部における支承穴に回動可能に支承されている。前方端部において、板状の収納エレメント 2 4 は、ピン支承部 3 2 によって側方で灰皿 1 4 の後側に旋回可能に支承されている。ピン支承部 3 2 の支承ピンが回動可能かつ摺動可能に収容されている、収納エレメント 2 4 の長手方向溝 4 4 は、灰皿 1 4 に対する収納エレメント 2 4 の制限された摺動可能性を可能にする。

30

【0018】

前記収納エレメント 2 4 を除き、図 3 a ～ c に示された組込式コンビネーション 1 0 は、図 1 a ～ c 及び図 2 a ～ c に示された組込式コンビネーションと同様に構成されており、同じ形式で機能する。繰返しを避けるために、図 3 a ～ c に関してその点については、図 1 a ～ c 及び図 2 a ～ c の上記実施例が参照される。

40

【0019】

図 3 a ～ c に示された組込式コンビネーション 1 0 の灰皿 1 4 が、図 3 a に示されたように後方へ押し付けられていて、これにより、カバー 1 2 の開口 2 2 を介してアクセス可能であるならば、収納エレメント 2 4 は、ほぼ垂直な位置へ、後方から下方へ、灰皿 1 4 の後側に沿うように旋回させられている。灰皿 1 4 が前方へ押し付けられると、灰皿は、灰皿 1 4 が図 3 c に示されたように完全に前方へ押し付けられている場合にカバー 1 2 の開口 2 2 の下方に位置するまで、収納エレメント 2 4 を一緒に移動させる。この位置におい

50

て、飲料容器、例えばグラス 38 は、収納エレメント 24 の収納開口に収納可能である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 3つの種々異なる位置における、本発明による組込式コンビネーションの第 1 実施例を示す図である。

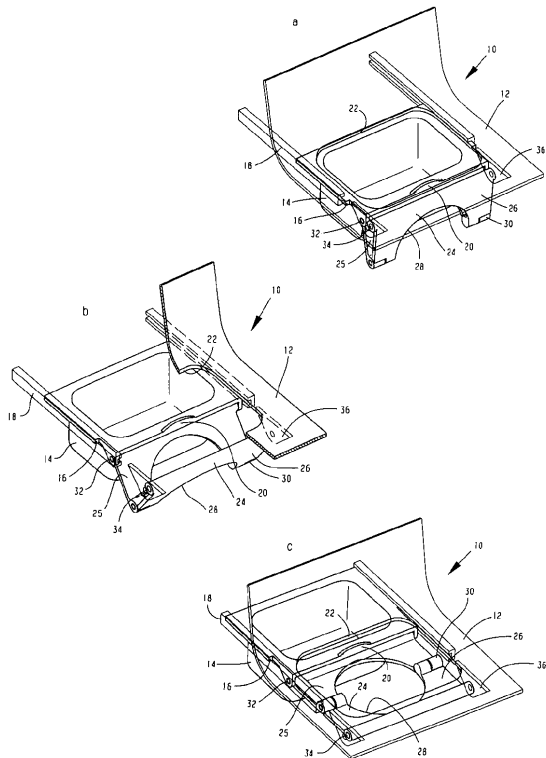
【図 2】 図 1 a～c の組込式コンビネーションを示す縦断面図である。

【図 3】 種々異なる位置における、本発明による組込式コンビネーションの第 2 実施例を示す図である。

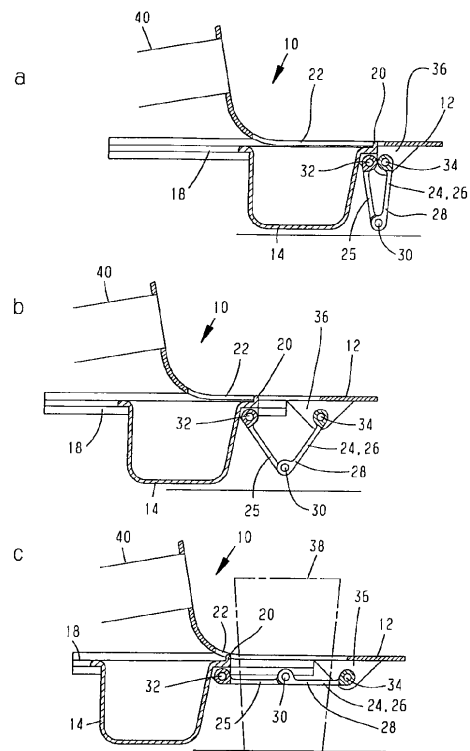
【符号の説明】

10 組込式コンビネーション、 12 カバー、 14 灰皿、 16 ばね、 18 案内レール、 20 グリップ、 22 開口、 24 収納エレメント、 25, 26 部分、 28 収納開口、 30 ヒンジ、 32, 34 ピン支承部、 36 支承ブラケット、 40 支持リブ、 42 支承ピン

【図 1】



【図 2】



a

b

c

10

12

14

18

20

22

24

26

28

30

32

34

36

38

40

42

44

フロントページの続き

(74)代理人 230100044

弁護士 ラインハルト・アインゼル

(72)発明者 ファルク シャール

ドイツ連邦共和国 アルピルスバッハ オーベラー ズルツベルク 7

審査官 富岡 和人

(56)参考文献 実開平6-23833 (JP, U)

特開平5-193417 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl.⁷, DB名)

B60N 3/00

B60N 3/10